

# ～TANKYU～

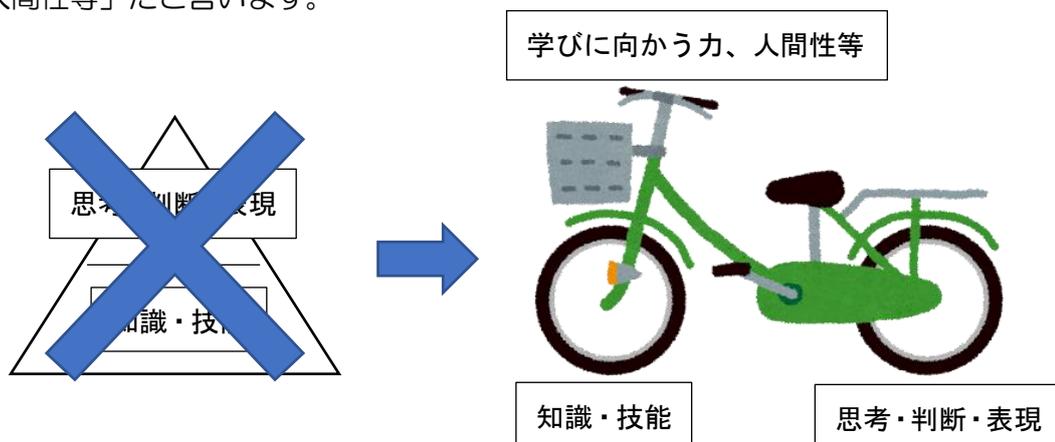
谷地南部小学校  
校内研究だより  
2022. 12. 1  
No.37 文責 荒木秀

## 「知識・技能」も大切です①

1学期に、学年通信で「子ども達の学びはいくら？」というタイトルで学年通信を出しました（裏面に載せています）。簡単にまとめると、義務教育9年間で子ども達が学ぶ内容（主に「知識」と呼ばれる学力）を、スマホのチップとして組み込んだ場合、「5円」にしかならないと経営コンサルタントの大前研一さんという方がおっしゃっているという話です。

こんな内容で通信を出してしまったから、保護者のみなさんは大変心配されたようです。電話や連絡ノート、学級懇談会を通して、たくさんのご意見が寄せられました。最初に結論を言うと、「知識及び技能」（以下、「知識・技能」）が必要ないと言いたいわけではありません。「知識・技能」だけではダメだということです。「知識・技能」を活用する「思考力・判断力・表現力等」（以下、「思考・判断・表現」）まで、私たちは見据えなければなりません。

ただし、「知識・技能」の上に「思考・判断・表現」というピラミッドのイメージではありません。「知識・技能」を習得後、「思考・判断・表現」で活用する場面もあれば、「思考・判断・表現」をするために「知識・技能」を習得することもあります。だから、文科省の大塚健太郎調査官は、二つの関係を自転車の両輪に例えていました。そして、その両輪をコントロールするハンドルが「学びに向かう力、人間性等」だと言います。



ということで、タイトルの『「知識・技能」も大切です』に辿り着くわけですが、この「知識・技能」の習得って、子どもたちにはときに苦しい学習になることがあります。それをいかに、興味をもって、主体的に習得できるかを次号で考えていきたいと思います。みなさんなら、どうしますか？

# 子ども達の学びはいくら？

唐突なタイトルをつけてしまいました。補足すると、義務教育9年間で子ども達が学ぶ内容（主に「知識」と呼ばれる学力）を、スマホのチップとして組み込んだ場合、いくら分になるか。こんなことを真面目に計算した人がいます。大前研一さんという方です。『経済参謀 - 日本人の給料を上げる最後の処方箋 - 』（小学館）より。

おうちの方はいくらぐらいになると思いますか？答えは、「5円」だそうです。たった5円分の内容を、9年間をかけて子ども達は学んでいるわけです。もちろん正確に言えばそれだけを学んでいるわけではありません。文部科学省では、学力を3つの要素で捉えています。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」です。そのうちの「知識」の部分がたった5円ということなのです。

おうちの方は、この事実をどう捉えられるでしょうか？「えー、5円に9年間もかけているの？コスパ悪すぎ！」こんな感じでしょうか？生まれたときから、身の回りにコンピュータやスマホがあるのが当たり前のZ世代の子ども達にしてみたら「そんなの、スマホで調べたら早いじゃないの。」なんて言葉が返ってきそうです。

前号の通信で、プリント学習が少ないと心配する声から子ども達から聞こえてきましたが、プリント学習で身につくのは、主にこの「知識・技能」です。「漢字を覚える」「計算のやり方を覚える」などですよ。もちろん、この学習が必要ないというわけではありません。「知識・技能」があるからこそ、それを活用して「思考・判断・表現」できるわけですので。学力のベースであることに間違いはありません。しかし、これだけで満足してはダメだということです。



私たち親世代は、この「知識つめ込み型の学習」をしてきたのではないのでしょうか。しかし、その知識や技能が以前ほど通用しない時代に突入してきました。予測困難な時代です。（コロナの出現が最たるものですよね。）これからの時代は、自分で「思考・判断・表現」する力が求められます。

「先生、そんなことを言っても、まず高校入試や大学入試が目の前に控えているから。結局そこが変わらないと。」なんて思われた方いませんか？本当に、入試問題変わっていないんですかね？その辺りを、明日の通信でまたお伝えしていきたいと思っています。あっ、大前さんの本、お貸ししますよ。お知らせください。鵜呑みにはできませんが、楽しく読める本ですよ。